

KAC 便り



2017年 秋号



皆さんこんにちは！！朝晩は、だいぶ涼しくなってきましたね。
今回のKAC 便りは、
・マダニによる感染症（最近、新聞やTVニュースで話題になっていますね。）
・KAC スタッフから飼い主の皆様へお伝えしたいこと
の2つの記事です。

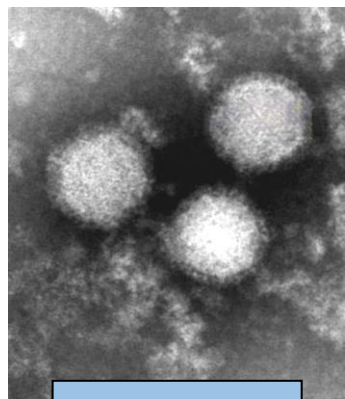
皆さんの大切なペットさんの為に、ぜひ、最後まで読んでくださいね！！



重症熱性血小板減少症（SFTS）

重症熱性血小板減少症（SFTS）とは

2011年に発見されたウイルスによるダニ媒介性感染症です。
2013年1月に国内で海外渡航歴のない方がSFTSに罹患していたことが初めて報告され、それ以降他にもSFTS患者が確認されるようになりました。
また昨年、野良猫に咬まれた女性が発症したという報告もあります。



SFTS ウィルス

症状

人がSFTSウイルスに感染すると6日～2週間の潜伏期を経て、発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が認められ、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出血症状などを起こします。また人における致死率は6.3～30%と報告されています。

感染経路

ウイルスを保有しているフタトゲチマダニ等のマダニに直接咬まれる、もしくは、マダニに咬まれて感染した動物（野生、屋外で飼育されている動物）の体液などにより感染します。

お散歩中のワンちゃんにマダニが付着することで、知らない間に人間に感染する可能性もありますので普段からの予防が大事になってきます。

予防薬は月一回皮膚に垂らすタイプのお薬などで簡単に出来るので定期的にするのがおすすめです。

万が一、ワンちゃんやネコちゃんの皮膚などに付着しているマダニを発見した場合は絶対に自分で取り除かずに、動物病院にご来院ください。

（獣医師 鈴木憲人）



金町アニマルクリニック
葛飾区金町 2-29-6
03-3609-7517

永代橋アニマルクリニック
江東区永代 1-9-1
03-5875-8771

2017年9月1日発行



吸血前と吸血後のマダニ
二の大きさの比較



血を吸ってパンパンに
膨れ上がるマダニ



各種予防薬
獣医師の処方が必要になります



★KAC スタッフから飼い主様へお伝えしたいこと★



・病院へご来院の際は、待合室・駐車場内での逃走や事故防止の為に、必ず動物をキャリー・ケージに入れてお待ちください。

どんなに大人しく良い動物であっても、×ノーリードや抱っこ×では事故・トラブルの元になるので御遠慮ください。当院でも毎回、注意喚起しております！

過去には、飼い主様が猫を抱っこで外へ連れていき、何かの拍子に逃走し、その後行方不明になった、お散歩中に他の犬に吠えられ、驚いてリードが離れ道路に飛び出し、事故死してしまった等・・・飼い主様の努力で防げた悲しい事故を目撃したスタッフも居ます。

このように、動物は、野性だった時の本能が残っていて、時に人の想像を超える行動をすることがあります。

また動物病院には、いろいろな飼い主様が集まります。例えば、自分のペット以外の動物は苦手だったり、またはアレルギーをお持ちの方もいらっしゃいます。全ての飼い主様が快適に過ごせるように、ご協力お願いいたします。



◎お願い：リードは短めに持つ。動物だけでイスに座らせない。◎



◎良い例
きちんと動物を
ゲージに入れている



×悪い例
リードを長く持っている

・受付では、必ず診察券を指定の場所に入れて、飼い主様の診察順を明確にするため、**ウェイトングボードにお名前のご記入をお願いします。**

もし、受付のスタッフが席を外している間に、診察券を出さないと、名前も書かないで座っている飼い主様がいらっしゃると、受付が気付かなかったら、順番が抜かされてしまいますので、ご注意ください。

また診察券を紛失された場合は再発行いたしますので受付スタッフまでお申し出下さい。

・飼い主様の待ち時間が短くなるよう、日々努力しています。

よくご指摘を受ける、“診察までの待ち時間が長い”というお言葉。飼い主様をお待たせしないよう、スタッフ間で連携し、できるだけ待ち時間が短くなるよう、日々努力しています。

しかし動物病院では人間の病院と違い、全ての分野（内科、外科、皮膚科、耳鼻科、眼科、歯科、整形外科、画像診断など）を診察します。健康な子のワクチン、爪きりから、急患で命に係る救急処置まで。救命救急が必要となった場合は、まずそちらが最優先となります。スタッフ全員が緊急対応するため、外来は一時ストップになります。そのような場合は、どうしても待ち時間が長くなることが予想されますが、飼い主の皆様のご理解とご協力をいただくと幸いです。

・フィラリア予防をお忘れなく！！

涼しくなってくると、もう蚊もいないだろうと思って予防をやめてしまう飼い主さんもいらっしゃいます。フィラリアは心臓に寄生する動物の生命に関わる危険な寄生虫で、蚊によって媒介されます。最近は地球温暖化が進み、秋でも冬でも蚊を見かける事があります。予防薬は蚊がいなくなってから更に1ヶ月間は飲む必要がありますので、ご注意ください。

当院では原則として4月～11月までの予防をおすすめしていますが、蚊の多い地域では、さらに12月も予防が必要になります。飼い主様の判断で勝手に飲まずのをやめたりしないで、処方されたお薬はしっかり飲ませてあげてくださいね。

・検査結果や治療方針などをお話しするにあたり、飼い主様のご家族からキーパーソンを決めてください。

キーパーソンとは、飼い主様のご家族の中で、代表で獣医師の話を聞き、治療方針の決定をする方のことです。特に難しい病気の治療に関して、ご家族間での治療上の意見の行き違いを防止し、治療をスムーズに行う為に必要となります。

なお、当院の治療方針についてのご質問・ご意見はいつでも伺いますので、担当獣医師にお話してください。

（動物看護師 片山由紀）

